

川越市駅周辺まちづくりビジョン (案)

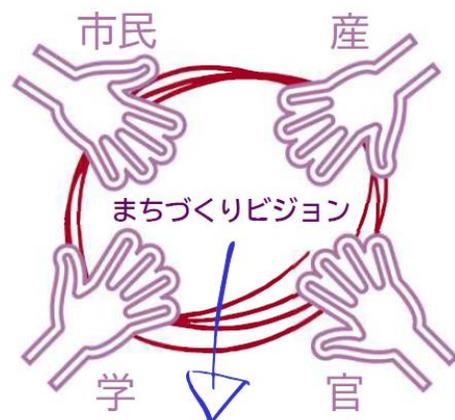
令和8年2月

川越市 都市計画部 都市計画課

1 ビジョンについて

【川越市駅周辺まちづくりビジョンについて】

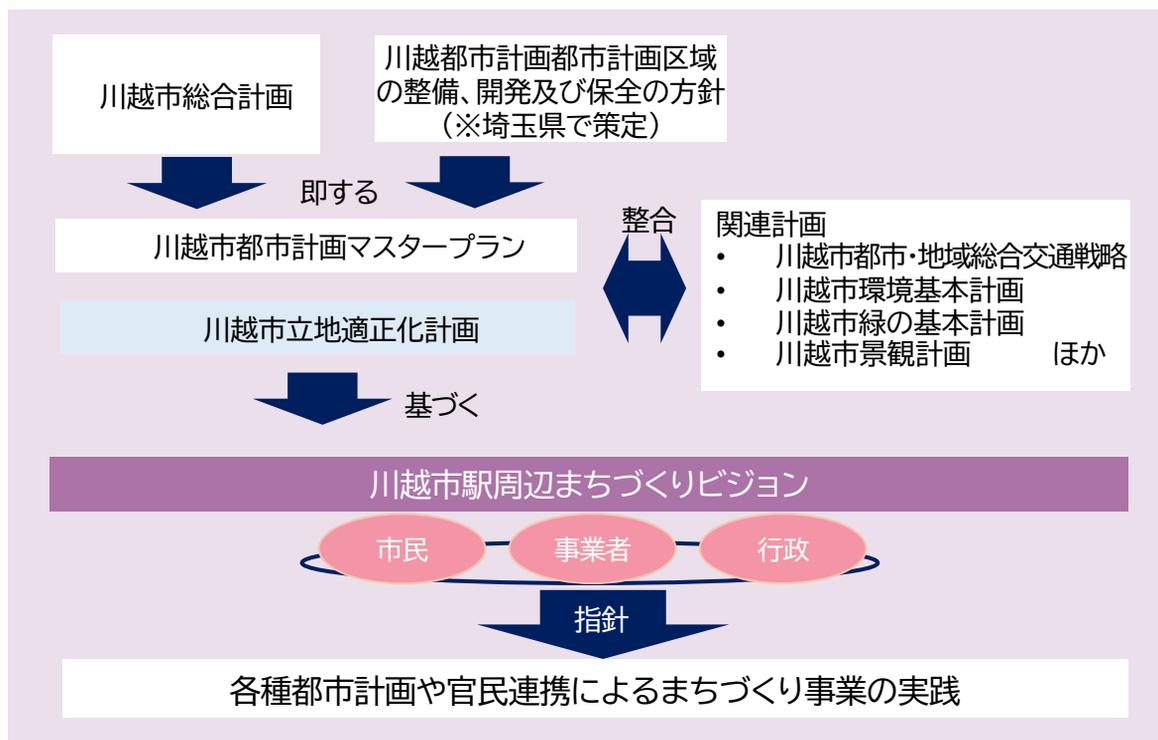
- 川越市駅周辺では、鉄道によって市街地が分断されており、駅の出入口が東側のみであることや、駅周辺にふさわしい土地利用が十分に図れていないことなどから、まちづくりにおいては、東西一体の魅力ある都市空間の形成を図ることが大きな課題です。
- この川越市駅周辺まちづくりビジョンは、**目指すべきまちの将来像とその実現に向けた取組や進め方**について、まちづくりの重要なプレイヤーとなりうる「市民」「事業者」「行政」が共有し、協働に取り組むための**共通の指針**として、まちづくりの方向性を示すものです。



多様な関係者の協働によるまちづくり

【位置づけ】

- 本ビジョンは、本市の行政運営に関する総合的な計画である「川越市総合計画」や埼玉県で策定する「川越都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即します。
- また、都市計画に関する基本的な方針を示した「川越市都市計画マスタープラン」、「川越市立地適正化計画」に基づき、「川越市都市・地域総合交通戦略」「川越市環境基本計画」「川越市緑の基本計画」「川越市景観計画」などの関連計画と整合を図ります。



2 まちの現状

- 将来像の検討にあたり、現状や社会経済情勢の変化を整理します。

1 歴史

- ✓ 川越には、**蔵造りの街並み**などの誇れる歴史などのレガシーがあります。
- ✓ また、**川越市駅は、地元の想いが募った結果誘致した念願の駅**です。昭和後期に学校の立地が進んだものの、平成後期には一部店舗が営業終了し、土地利用の変化が起こっています。

■ 川越市および川越市駅周辺におけるまちの形成

- 市の中心部には、昔ながらの町割りが残り、江戸時代の史跡や明治時代に築かれた蔵造りの町並みが賑わいをみせるなど、**観光都市として、周辺都市にはない特色をもった都市を形成**しており、川越市駅はその中心部の西方に立地しています。



出典：川越市広報室資料

川越まつり

■ 川越市駅周辺のまちなりたち

- 明治末に東上鉄道敷設計画が具体化すると、六軒町への駅誘致活動が盛んに行われました。
- 六軒町の住民が一丸となり、駅用地として五千坪の土地を東上鉄道に提供し、努力の甲斐あって**1914年に念願の「川越町駅」が開業**しました。地元住民からは「六軒町駅」と呼ばれました。
- 駅ができた後、周辺には紡織工場や住宅などが立地しました。
- 昭和30年代には**高校（山村学園高校、星野学園高校）が立地し、学生利用も増加**しました。また、スケートセンターも立地し、来街者が増加しました。
- 平成21年には、工場が閉鎖しました。また、平成28年にはスケートセンターが営業終了するなど、**土地利用の変化が起こっています**。



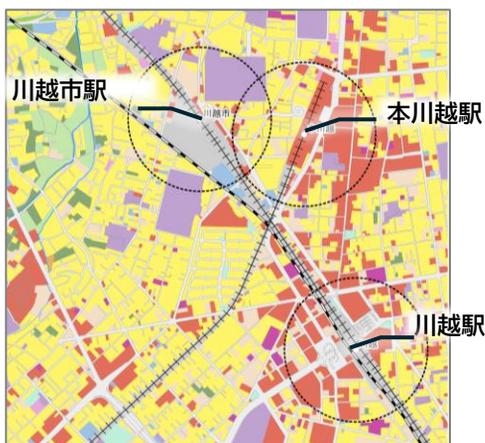
出典：川越市制三十年誌

川越市駅（昭和27年）

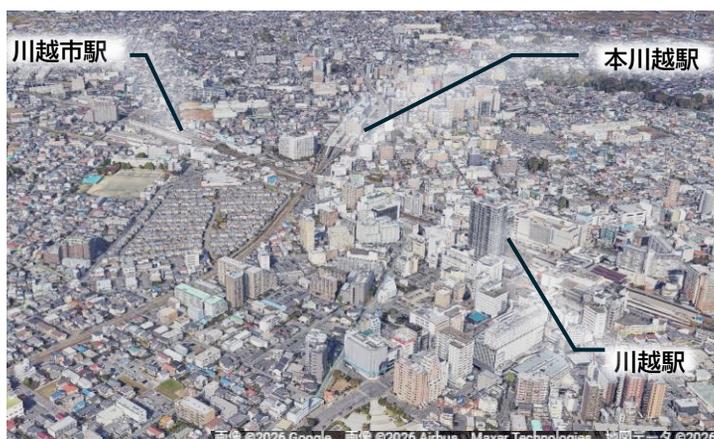
2 土地利用状況・建物状況

- ✓ 三駅の250m圏内の土地利用割合を見ると、川越市駅周辺は川越駅・本川越駅と比較して、**公益施設用地や交通施設用地の割合が高く、商業用地の割合が低くなっています。**
- ✓ 建物の状況を見ると、本川越駅・川越駅は駅を中心に中高層の建物が多く並んでいますが、**川越市駅周辺は低層の建物が中心**となっています。

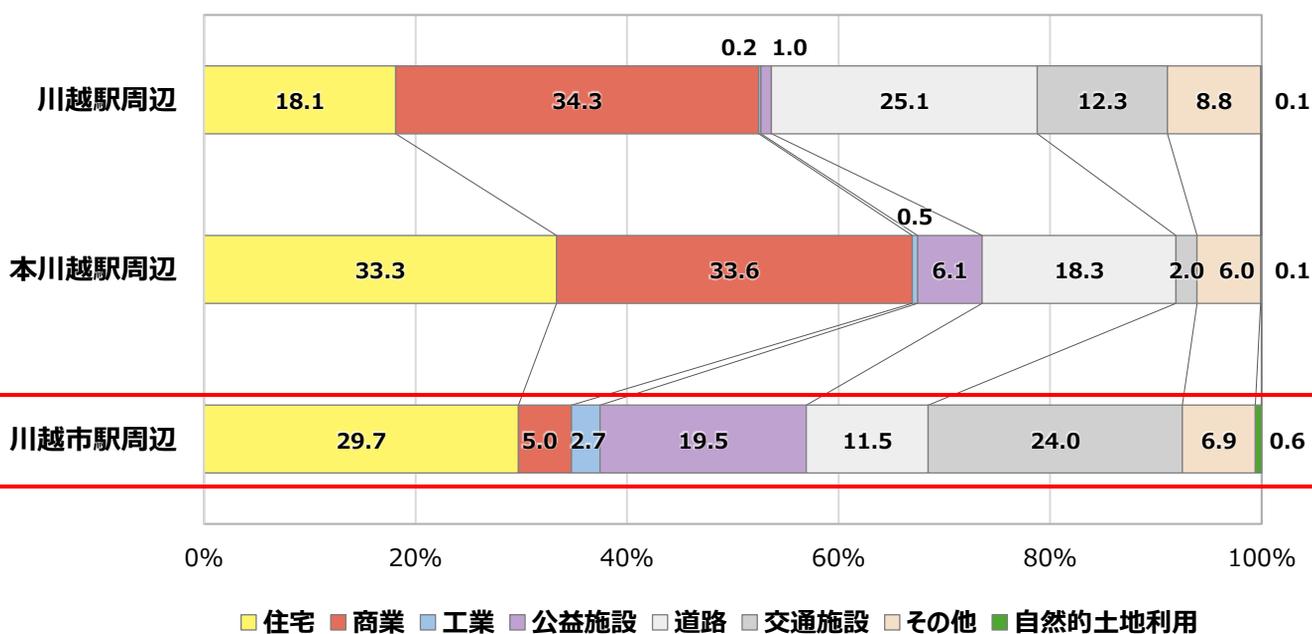
■ 土地利用状況図



■ 建物状況



■ 土地利用状況（面積）

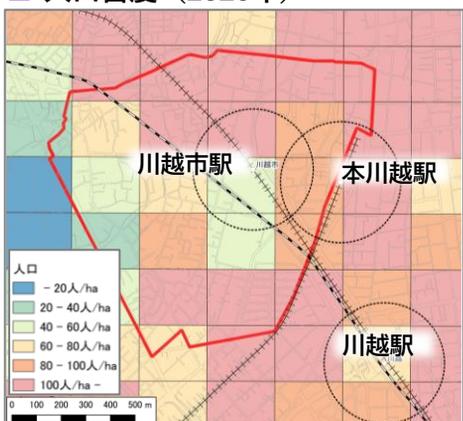


出典：R2年都市計画基礎調査、Google Map

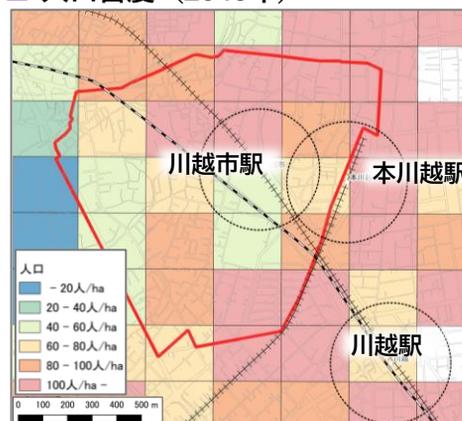
3 人口構成

- ✓ 三駅周辺は**比較的高い人口密度**が形成されており、将来にかけても保たれる見通しとなっています。
- ✓ 川越市駅周辺（赤線の範囲内）の年齢構成をみると、市域全体と同様75歳以上高齢者が多くなっていますが、**ファミリー層も一定数いる**状況です。

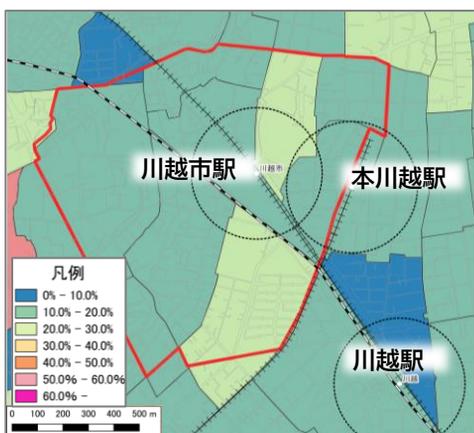
■ 人口密度（2020年）



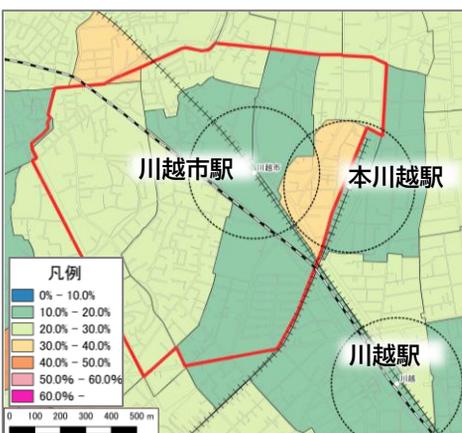
■ 人口密度（2040年）



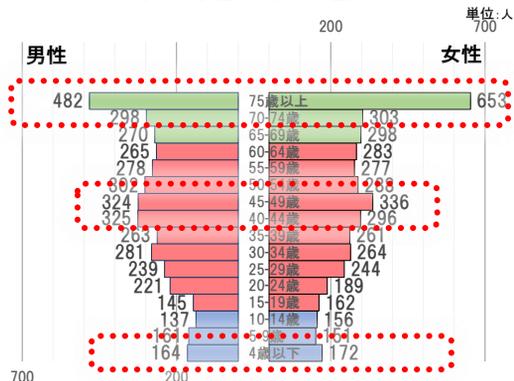
■ 年少人口比率（2020年）



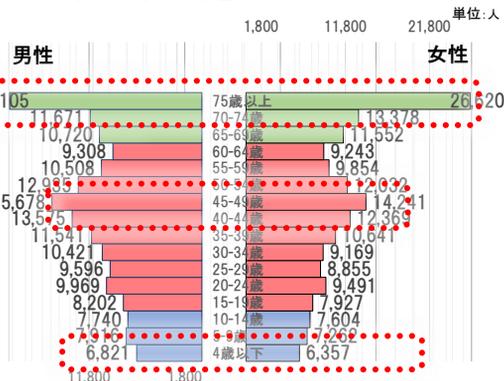
■ 老年人口比率（2020年）



■ 年齢構成（川越市駅周辺）



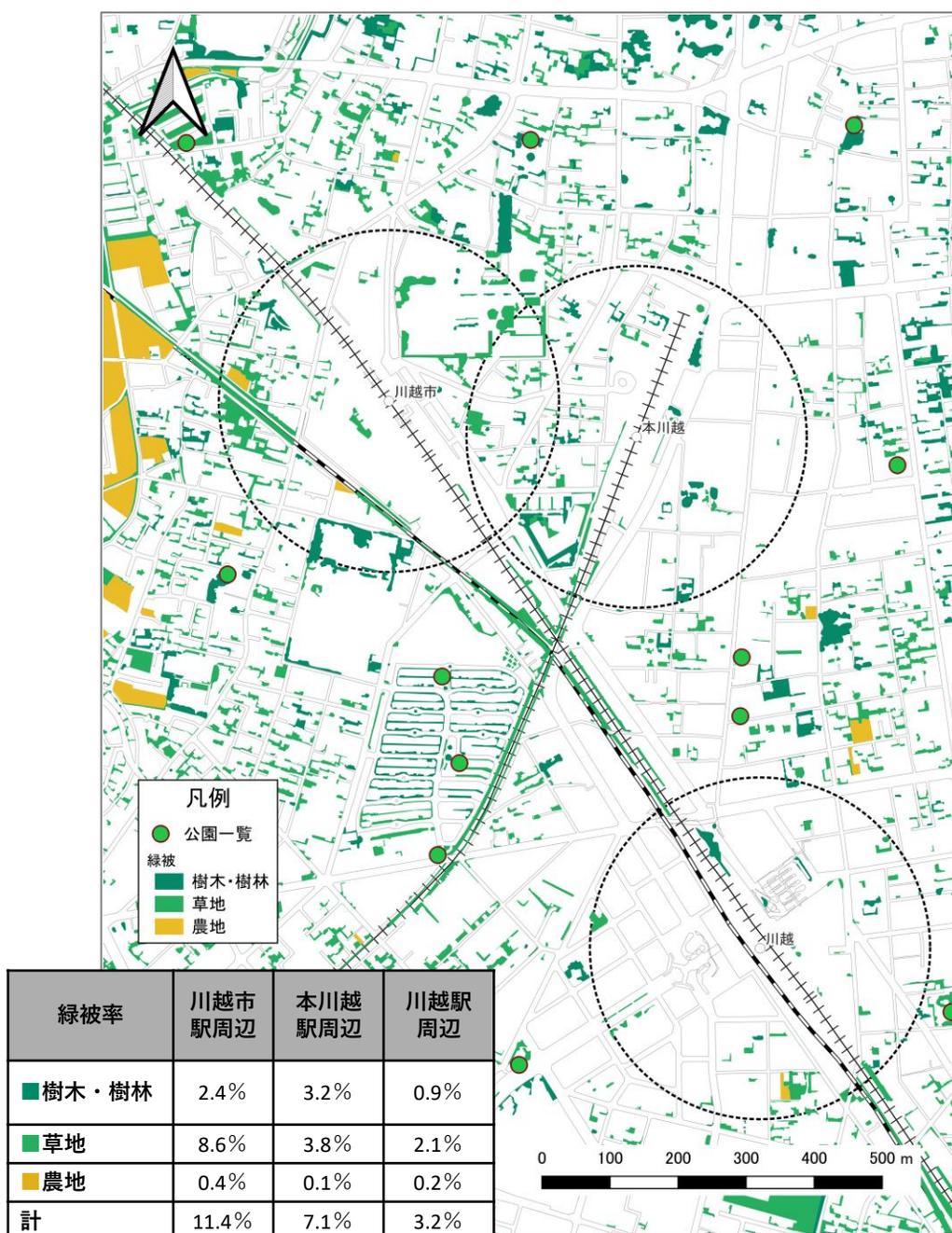
■ 年齢構成（川越市全体）



4 みどり

- ✓ 三駅周辺は、緑を感じられる場所や、小休止できる緑地空間が少ない状況です。
- ✓ 川越市駅周辺は、他二駅と比較し、緑被率は高いものの、市民に開放された憩える**公園の**ような空間が少ない状況です。

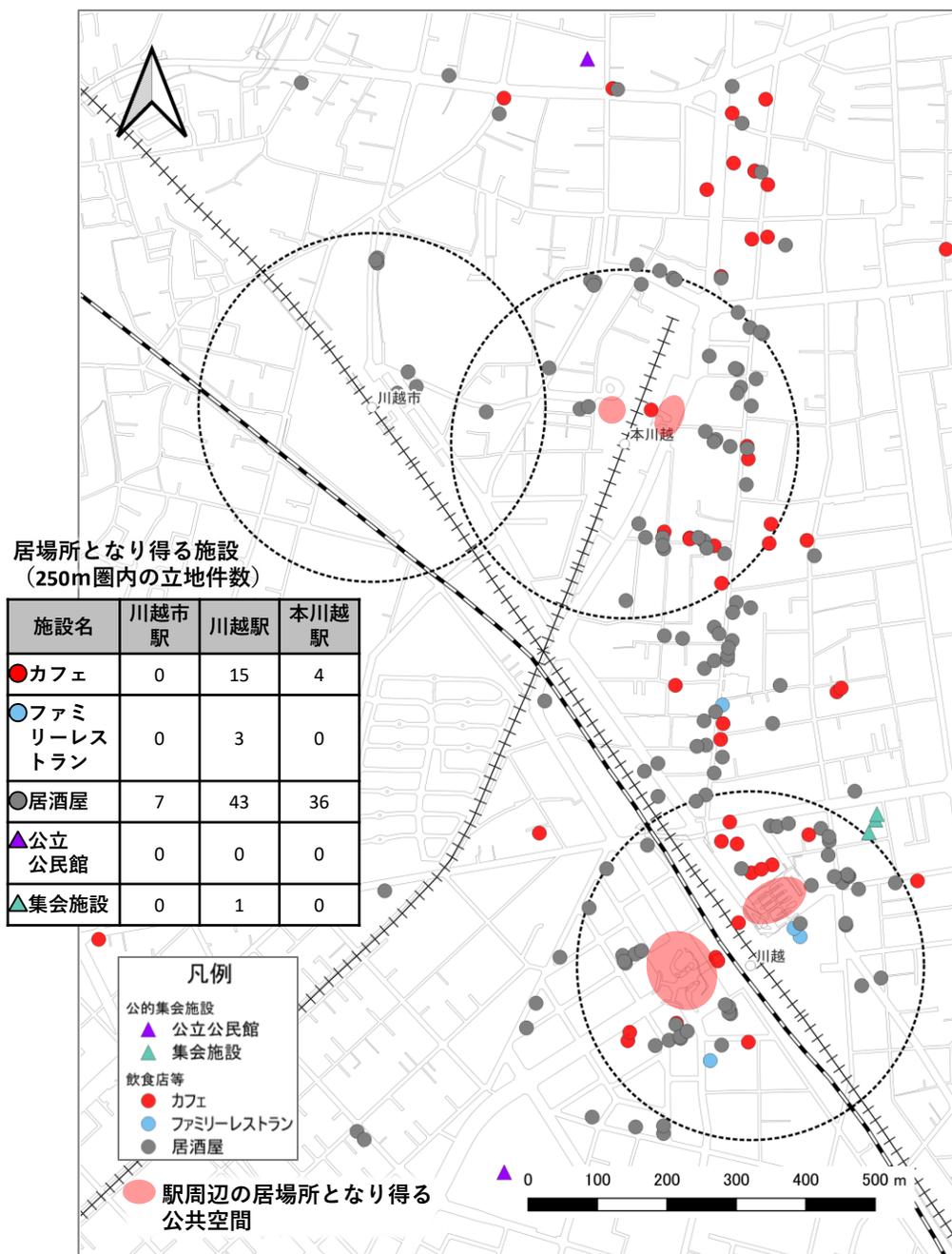
■ みどりの状況図



5 居場所

✓ 川越市駅周辺は、他二駅と比較し、**公共空間などの居場所となりうる空間の分布が少ない**状況です。

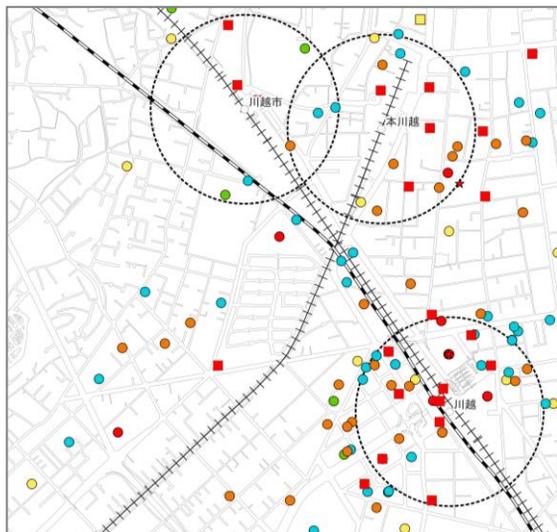
■ 居場所の状況図



出典：Google Map

6 都市機能立地状況

- ✓ 川越市駅周辺は、日常生活施設が点在するものの、川越駅・本川越駅に比べ、**都市機能の立地が少ない**状況です。

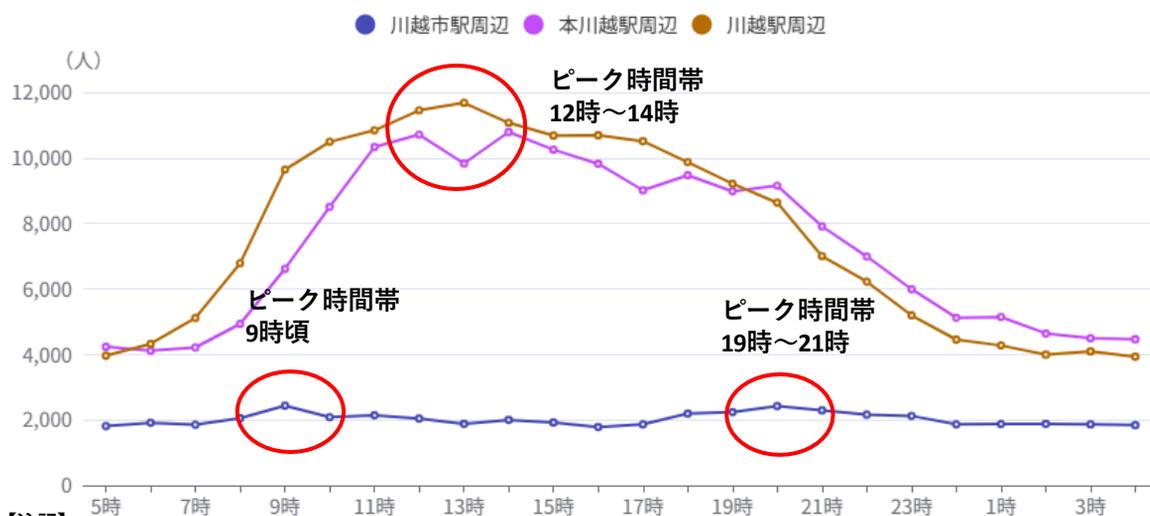


| 機能・施設 | 施設数 | | |
|----------------|------|-----|------|
| | 川越市駅 | 川越駅 | 本川越駅 |
| 医療福祉機能 | | | |
| ○医療施設 | 1 | 18 | 6 |
| 介護福祉機能 | | | |
| ●介護福祉施設 | 3 | 12 | 3 |
| 教育・文化機能 | | | |
| ●学校 | 2 | 0 | 0 |
| 子育て施設 | | | |
| ●保育園・保育施設 | 0 | 2 | 2 |
| ▲認定こども園 | 0 | 0 | 0 |
| ■幼稚園 | 0 | 0 | 0 |
| 商業機能 | | | |
| ★ショッピングセンター | 0 | 2 | 1 |
| ●スーパーマーケット | 0 | 4 | 1 |
| ■コンビニエンスストア | 3 | 10 | 4 |
| 合計 | 9 | 48 | 20 |

7 滞留人口の時間別推移

- ✓ 川越市駅周辺は、他二駅と比較して**滞留人口が顕著に少ない**状況です。
- ✓ これは、**川越市駅周辺において居場所となる空間や、目的地となる場所が少ないため**と考えられます。

■ 滞留人口の時間帯別推移（三駅比較）



【注記】

- NTTドコモが提供するアプリケーションの利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を加工し、処理したデータである。個人を特定する情報は含まれない。
- ある地点に15分以上滞留している人の1時間当たりの平均人数である。
- 本データは、各駅周辺の250m圏内を対象とし、2024年5月の平日（1日当たり）を抽出したデータである。

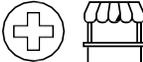
3 今後のまちの在り方

- まちづくりビジョンの検討にあたり、社会経済情勢の変化や他二駅との性質の違いを踏まえ、ワークショップや懇談会にて今後のまちの在り方を検討しました。

1 社会潮流の変化

- ✓ 本市においても、人口減少・超少子高齢化社会が予測されています。このような状況下、行政サービスや地域コミュニティを維持するために、まちづくりにおいては、**駅を中心としたコンパクトなまちづくり**等が進められています。

人口減少・高齢化社会問題への対応

- **コンパクト・プラス・ネットワーク（人口減少・高齢化に対応したまちづくり）** 
 - 医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるように地域公共交通と連携して、駅等の拠点を中心にコンパクトなまちづくりを目指す『**コンパクト・プラス・ネットワーク**』型のまちづくり。

魅力あるまちなかづくり

- **鉄道沿線まちづくり・駅まち空間の再構築（鉄道沿線・駅前空間の魅力向上）** 
 - 鉄道沿線においては、都心などのターミナル駅から一定の距離がある**中間駅において、ターミナル駅に依存しない、魅力ある都市の形成。**
 - 鉄道駅周辺においては、駅空間・駅前広場・周辺街区等を個々に最適化するのではなく、「**駅まち空間**」として**一体的に捉え**、自治体・鉄道関係者・開発事業者・市民等の関係者が共有すべきビジョンを明確にし、連携。

- **プレイスメイキング（まちなかの公共空間の利活用・居場所づくり）** 
 - 公共スペースやコミュニティ内の場所を変えて、より機能的で魅力的な、利用する人々を引き付ける場所にするため、公共の空間を、**人々が心地よく集まり、交流し、生活を豊かにできる「居場所」に変えていく**取り組み。

- **ウォーカブル（居心地がよく、歩きたくなるまちなかづくり）** 
 - 都市の魅力を向上させ、まちなかに賑わいを創出するため、街路空間、公園・緑地、都市農地、民間空地等のオープンスペースの柔軟な活用を行う「**居心地が良く歩きたくなる**」まちなかづくり（ウォーカブルなまちなかの形成）が求められています。

災害への対応

- **災害の頻発化・激甚化**
 - 近年の災害の頻発化・激甚化を踏まえ、まちづくりにおいても**インフラ整備や災害情報の発信等**の対策向上が必要。

■ 参考資料

□ 居心地が良く歩きたくなるまちなかのイメージ（ウォークブル）（国土交通省）



□ 駅まち空間における一体的な都市アセットのイメージ（駅まちデザイン検討会）



2 拠点づくりの前提となる考え方

- ✓ 本市では、市の中核をなす「都市的活動核」（川越駅・本川越駅・川越市駅の三駅周辺）の強化が重要となっており、**県西部地域の中心都市にふさわしい拠点**として、都市機能施設の集積や、交通結節点としての機能の充実により、様々なニーズに対応できる魅力的な都市空間の形成を図ることを目指しています。
- ✓ 鉄道沿線の間駅として、居住だけでなく、就業・消費・介護・子育てなどが可能な、魅力のある「**中間拠点都市**」の形成が必要です。

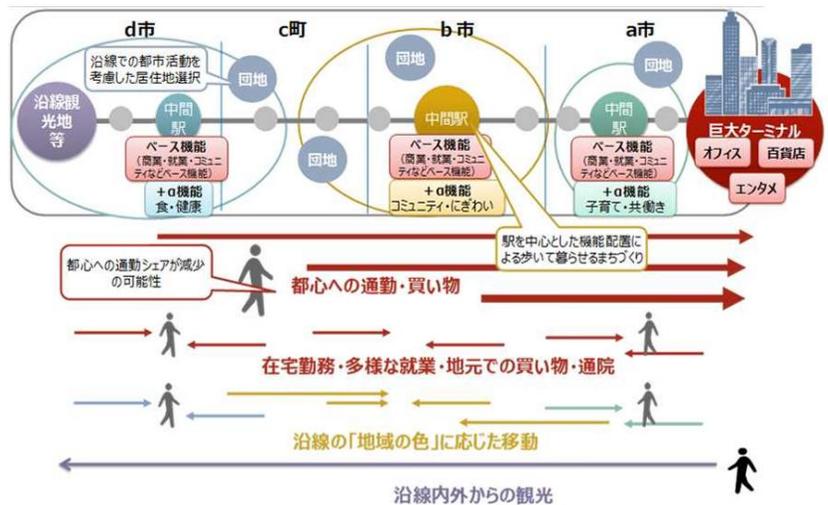
① 埼玉県西部地域の中心都市



出典：埼玉県ホームページより作成

② 都心に依存しない、「中間拠点都市」

これまでの都心部に依存した構造から、居住だけでなく就業・消費・介護・子育てなどが可能な「中間拠点都市の形成」が必要です。



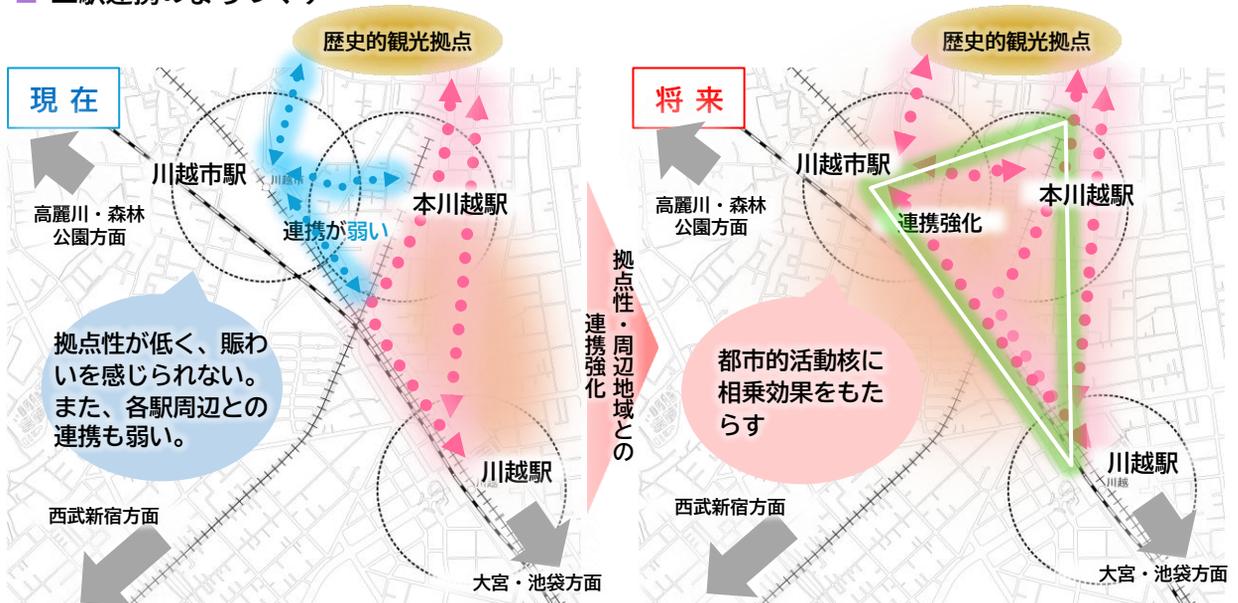
出典：国土交通省資料

埼玉県西部地域・鉄道沿線等、広域的な位置関係でのポテンシャルを活かした、**魅力のあるまちづくりが必要**

③三駅における川越市駅と連携まちづくり

- ✓ 川越市駅周辺は、交通混雑や生活利便施設・滞留空間の不足といった課題を抱えている一方、**始発駅であること、高い人口密度、通勤通学利用者の多さ、低未利用地の存在、良好な住環境**など、まちづくりにおける**高いポテンシャル**を有しています。
- ✓ これらの特性をまちの賑わいにつなげ、三駅全体の拠点性を高めていくため、生活利便性の向上による**まちなか居住の推進**や来街者を惹きつける**魅力的な場の創出**など、川越駅・本川越駅とは違った特色を持つ拠点づくりが必要と考えます。
- ✓ 川越市駅の**拠点性向上**と**三駅の連携強化**により相乗効果もたらされ、本市が県西部地域の中心都市として将来にわたり活力を維持していけるものと考えています。

■ 三駅連携のまちづくり



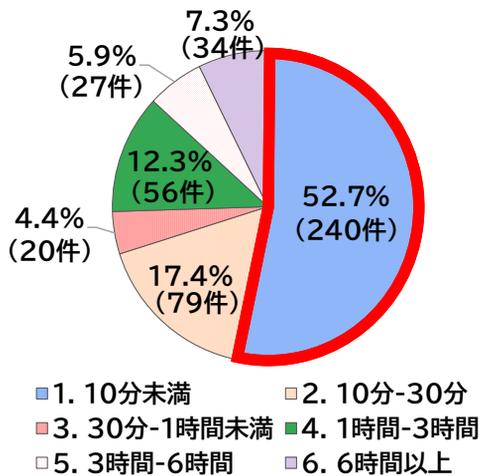
川越市駅の拠点性向上に加え、三駅の連携強化により、都市的活動核の更なる活性化、県西部地域の中心都市として活力維持

3 みんなの想い

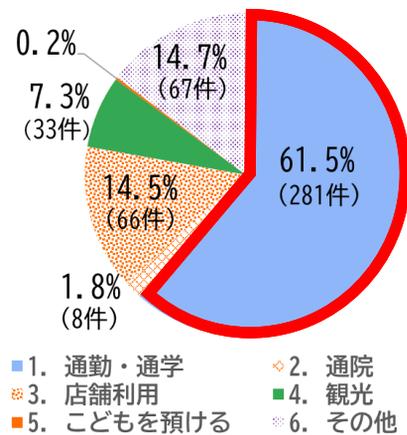
- ✓ 令和6年度に実施したまちづくりアンケートでは、まちの現状や、「将来、川越市駅周辺がどのようなまちになっているとよいか」について伺いました。
- ✓ 駅周辺の滞在時間は10分未満が最多となっており、通勤通学利用が多い結果となっています。
- ✓ 駅周辺居住者と駅利用者は「暮らしに必要な施設がある、日常生活の拠点となるまち」、高校生や商店会からは「賑わいのあるまち」を望む人が最も多くなっています。

■ アンケート

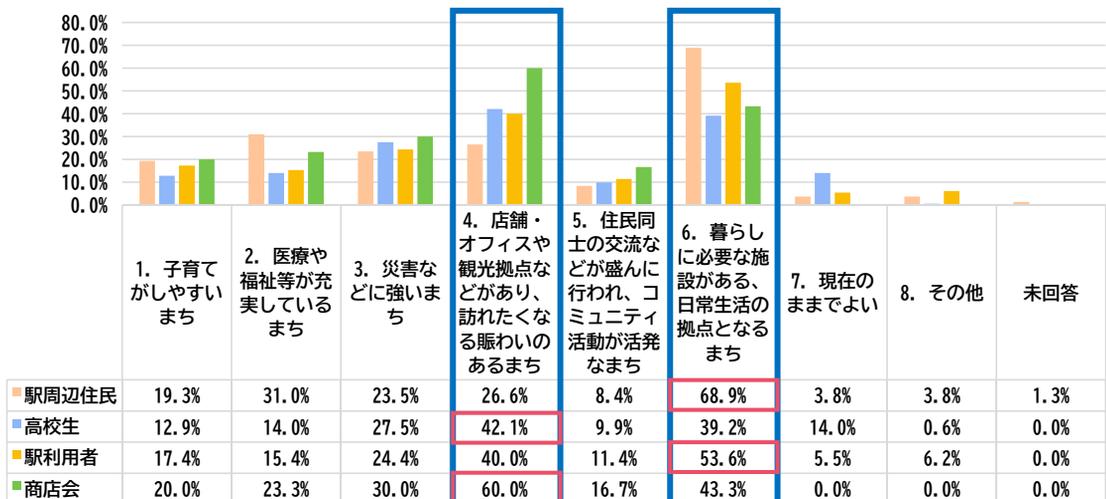
Q. 川越市駅周辺の滞在時間は？
【駅利用者】



Q. 川越市駅周辺の利用目的は？
【駅利用者】



Q. 未来の川越市駅周辺は、どのようなまちになっているとよいか？



出典：川越市駅周辺まちづくりアンケート

- ✓ 周辺住民や駅利用者、学生にご参加いただいたワークショップでは、まちの魅力や課題、将来像についてグループ討議を行いました。各班の共通認識として、「現在の住環境の良さをベースに居心地のよい空間を創出すること、川越市駅にふさわしい賑わいを生むようなまちづくり」といった方向性が示されました。
- ✓ 懇談会では、学識経験者、鉄道事業者、自治会関係者など、さまざまな立場の方からご意見を頂きました。主なご意見として、「魅力的なまちには居心地のよい屋外空間がある」「土地利用を最大限に生かし、埼玉県の核となるようなまちづくり」「緑、歩行者という視点が必要」「行政機能の立地が望ましい」などが挙げられました。

■ ワークショップ



ワーク2：10年後の将来像

C 班



■ みんなの想い



川越市駅周辺では、
川越市駅・川越らしさを生かしながら、
暮らしやすく住み続けたい、にぎわいがあり訪れたいと思える、
みんなの居場所があるまちにしたい

1 将来像

- 今後のまちの在り方を踏まえて、ビジョンにおいて目指すまちの将来像を以下のように設定します。

■ 将来像



《将来像の考え方》

- 「社会潮流」「拠点づくりの重要性」「三駅における川越市駅」「みんなの想い」を踏まえ、以下のとおり将来像の考え方を導きました。

- ① まちに心地よさが感じられ、様々な人々が訪れたい魅力的な都市空間を目指す
※心地よさは「利便性」「快適性」「安全性」だけでなく、人とのつながりや様々な価値観を受け入れる「多様性」なども重視する
- ② 地域住民をはじめ、学生や来街者、企業など、多彩なまちの関係者とともに、新たな価値を創造する
- ③ 愛称「市駅」とともに、多彩な関係者との協働により、まちを成長させていく

2 まちづくりの視点

■ まちづくりの視点

- 将来像を実現させるために、まちづくりを考えるうえで重要な6つの視点を設定します。
- 視点の中でも「Place」を特に意識するとともに、以下の5つの視点を踏まえたまちづくりを検討します。
- 「Place」を幹とし、5つの視点を枝葉として、さまざまな果実（取組み）を实らせ、木全体（川越市駅周辺）を成長させていくことを目指します。



3 川越市駅周辺での過ごし方（イメージ）

- 視点を生かしたまちづくりの推進により、様々な人の活動の選択肢が広がりライフスタイルの充実につながります。

■ 駅周辺を「つかう」ひと

駅周辺に引っ越してきた子育て世代

- 歩道が広いから、ベビーカーを押すにも安全に歩けるなあ。
- 駅には商業施設や保育所もあるから、共働きで子育てする上でかなり便利だ。



- このあたりは色々な年代の方がアクティブに活動しているな。長く住み続けられそうだ。

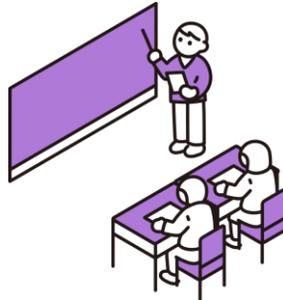
駅周辺に昔から住む高齢者

- 最近、川越市駅周辺が賑やかになってきてうれしいな。
- 道も広くなったし、広場もできて友達とおしゃべりが楽しいよ。
- 今度、孫が来るから皆で散歩したいな。



駅周辺の学生

- 今度の休日には、駅前の広場で行われる予定のマルシェに皆で出るんだ！



- 授業を終えて、部活帰りに友達と駅前のパン屋でテイクアウトして広場で食べるのが最近の楽しみ！

観光客



- 川越の観光地はゆっくり休める広場がなかったから、ここは居心地が良いなあ。
- せっかくなら来たんだし、夜まで過ごそうよ。向こうの方も楽しそうだよ。

■ 駅周辺で「生み出す」ひと

駅周辺のテレワーカー

- 新たなアイデアを得たいときは、駅前にできた広場でノマドワークしています。
- コンセントを利用できるスペースもあるから、一日中外で仕事ができる！
- 今度、広場でイベントを企画してみようかな。



駅周辺に興味を持って いる経営者



- 乗り換えで市駅を使っているのだけど、居心地の良い空間やお店があって、社員が楽しく仕事ができそうで魅力的だな。
- 学生がいて地域との心理的な距離感も近いし、川越ならではの事業を展開できそうだ。
- 都心からの距離もちょうどいいし、ここにオフィスを構えてみようかな。

農業従事者

- 今度、マルシェで出会った洋菓子店に、芋を提供する予定です。つながりができてうれしい！



心地よく 多彩な人を惹きつけるまちづくりにより、交流を生み出す

■ 「つかう」人、「生み出す」人が交流し、まちの価値を生み出す様子



～まちに集う皆の視点を活かし、新たな価値を創造します～

4 まちの課題と取組方針

- 視点ごとに抽出した課題から、4つのカテゴリー別に取り組方針を整理します。

将来像

課題

Place

- 地域住民や駅利用者に長時間滞在してもらえよう、滞在環境の充実が必要。
- 駅利用者等が寄り道や多様な働き方ができる環境の整備が必要。
- 回遊性創出につながる空間の形成が必要。
- にぎわいや、人との交流を支える居場所づくりが必要。

Green

- 皆が集え・憩えるとともに、魅力的で誇れるような広場空間や緑化空間の創出が必要。
- 多様な人が、日常も非日常時も居心地の良い空間づくりが必要。

Convenience

- ファミリー層や高齢者などの多様な世代の暮らしを支える都市機能（商業・医療・福祉等）の生活利便性の向上が必要。
- 子育て世代が日常利用する都市機能（保育所・小児科・公園）の充実が必要。

Legacy

- 地域特性を活かしたコンテンツの導入等、多様な人々の職能を活かしたまちづくりの参加契機の充実が必要。
- 学生や、そこに集う人たちと共に考え・行動し、まちづくりを進めていくことが必要。

Diversity

- 誰もが使いやすく、多様な人が滞在できる空間づくりが必要。
- 公共空間整備や開発等を契機としたまちの魅力づくりへの機運醸成、取組体制の構築や、企業参入の仕掛けづくりが必要。

Walkable

- 高齢者、障がい者、ベビーカー等、すべての移動者が安心して移動できるよう、道路空間のバリアフリー化等、居心地の良い歩行空間づくりが必要。
- 歩行者、自動車、自転車等が錯綜する駅前交通環境の歩車分離等、安全性の向上が必要。
- 東西における一体的なにぎわいを形成するため、東西移動の不便さの改善が必要。

取組方針

駅とまちの
一体化による
魅力の創出



暮らしの
質を高める
環境整備



安全安心+α
のまちづくり



まちに関わる
多彩な人の
連携強化



「心地よく

多彩な人を惹きつけるまち」

とするために、

何をなすべきか？

- 4つの取組方針について、取組例、取組事例、まちの使われ方のイメージを整理します。
- これらの取組みは、行政だけでなく、多彩な関係者が連携することによって実現を目指します。

【取組方針1】駅とまちの一体化による魅力の創出

川越市駅を賑わいの拠点として、周辺住民や学生、駅利用者、観光客等にとっての単なる通過動線とせず、人々を惹きつけ訪れたいくなるよう、地域や事業者等と連携して魅力の創出を図ります。



■ 取組例

まちの目的地となり、賑わい創出に資する都市機能を導入します。

○まちの魅力向上に資する都市機能の導入 ○過ごす時間が楽しくなる機能の創出

まちに集う人々の居場所となる、広場などの滞留空間・緑化空間を創出します。

○集客イベントや回遊性向上につながる広場空間の整備

○まちの景観や居心地を良くする緑化空間の創出

○まちの魅力向上に資する道路空間の検討、民地空間の利活用

○企業等との連携による緑地空間の高付加価値化・維持管理

利便性を活かした働く場やビジネス機会を創出する取組みを進めます。

○暫定的な空間利用として、コンテナハウス等の設置

○企業等の新商品の試験場としても活用できる、チャレンジショップの導入

○テレワーク、コワーキングスペースの設置

■ 取組事例

【事例】JR大塚駅前広場（東京都豊島区）



駅前広場の再構築と広場空間の整備例

【事例】小杉3rd Avenue（神奈川県川崎市）



広場空間を中心に、壁面や建物空間に緑化を行った例

■ まちの使われ方のイメージ（一例）



移動の合間にまちの広場でテレワークするビジネスマン



駅前広場の一部を活用し、地元商店と連携したマルシェを開催

【取組方針2】暮らしの質を高める環境整備

周辺住民、駅利用者等の潜在ニーズを満たすため、民間活力を生かした土地の有効活用により、日常・非日常のライフスタイルの質を高める都市機能の導入を図るとともに、住みやすい環境としての維持・充実を図ります。



■ 取組例

暮らしの質を高め、多様な世代のニーズに即した都市機能を導入します。

- 暮らしの利便性を高める機能（行政機能等）の充実
- 外出時や乗り換え時の立ち寄りに便利な環境づくり
- バリアフリー環境の整備

都市機能の導入の際には、ZEB等、環境負荷の低減に向けた取組みを推進します。

- 環境負荷の低減に向けた取組の推進
- まちなかの暑熱環境対策
- エネルギーの効率的な利用（廃熱利用など）

駅に近く利便性の高いまちなかの住宅地として、魅力的な住環境とするため、ルール作りなどの取組みを進めます。

- 住みやすい良好な住環境の維持・充実
- まちなみデザイン等の検討
- まちなかのオープンスペースにおける緑化の推進

■ 取組事例

【事例】ViNA GARDENS

（小田急海老名駅およびJR海老名駅直結の複合施設）



飲食・物販店舗、フィットネス、クリニック等で構成された複合施設。

【事例】瑞穂町図書館

（東京都瑞穂町）



施設リニューアルに併せ、居心地の良さを重視しデザインした図書館。

■ まちの使われ方のイメージ（一例）



仕事終わり、駅前の商業施設でお惣菜を買って帰路につくサラリーマン



ポケットパークの一角で団樂する高齢者たち

【取組方針3】安全安心+αのまちづくり

誰もが安全で快適に移動・滞在できるように、他の公共交通とのシームレスな乗り換え機能の確保、駅東西をスムーズに往来できるルート整備など、駅前の交通環境の充実を図るとともに、回遊性を高め、歩いて楽しいまちづくりを進めます。



■ 取組例

まちの回遊性や生活の安全性を支える公共空間の充実を図ります。

- にぎわいを支え、回遊性をもたらす歩行者空間・ネットワークの形成
- 駅周辺を快適に移動できる道路の整備
- 既存道路空間のルール等の検討（社会実験等）・導入
- にぎわい創出や安全性の確保にふさわしい空間デザイン会議の設置
- ユニバーサルデザインや案内サインの設置

駅の交通結節点としての機能を強化します。

- 駅前交通を円滑にする駅前広場の整備

東西のスムーズな移動の実現に向けて、歩行者動線の確保を検討します。

- 駅の東西をつなぐ歩行者動線の確保

緊急時や災害時の備えとして、滞在空間・防災機能の導入や活動を検討します。

- 帰宅困難者の発生に備えた滞在空間の確保
- 防犯・防災活動の実施

■ 取組事例

【事例】たまプラーザ駅（神奈川県横浜市）



駅からエレベーターやエスカレーターを通じてシームレスな動線を整備した例

【事例】子ども防災訓練（神奈川県川崎市）



地域の学校や民間企業と連携した避難訓練の例

■ まちの使われ方のイメージ（一例）



広がったまちなかの歩道でゆったりとベビーカーを押す家族



日常的には学生の居場所となり、いざという時には避難地となり得るオープンスペース

【取組方針4】 まちに関わる多彩な人の連携強化

周辺住民のほか、来街者、教育機関、企業などの様々な人や、コンテンツを掛け合わせ、新たな価値を創造するとともに、連携体制を構築し、まちに集う多彩な主体のつながりを強化していきます。



■ 取組例

駅周辺をはじめ川越中心部の持続的な発展を見据えて、多彩な関係者によるまちづくりの活動体制を構築します。

○多彩な主体との共創によるまちの価値創造に向けたプラットフォームの構築

○多彩な人々がまちづくりに参加できる機会（マルシェや講座など）の開催

地域の人材やまちなかの空間資源を有効活用しながら、まちの魅力や回遊性の向上を図ります。

○まちの歴史を知る機会として、まちゼミ等の開催

○近隣の学校等における社会参加やまちづくりに関する出前授業の開催

賑わいや、まちの価値の創出に向けた取組みを通じて、関係者との繋がりを作ります。

○既存の商店会等と連携した、まちの資源をつなぐコンテンツ（スタンプラリー等）

や、学生・農業従事者等と連携したイベント・商品等の検討

○地域や学校等を対象とした、教育連携（例：食育活動など）

■ 取組事例

【事例】草薙カルテッド（静岡県静岡市）



産・学・官・民が連携したまちづくり活動体制

【事例】食育活動（東京都）



企業を学校に招き、出張授業を開催

■ まちの使われ方のイメージ（一例）



まちの公共空間を活用して様々なイベントを行うプレイヤーたち

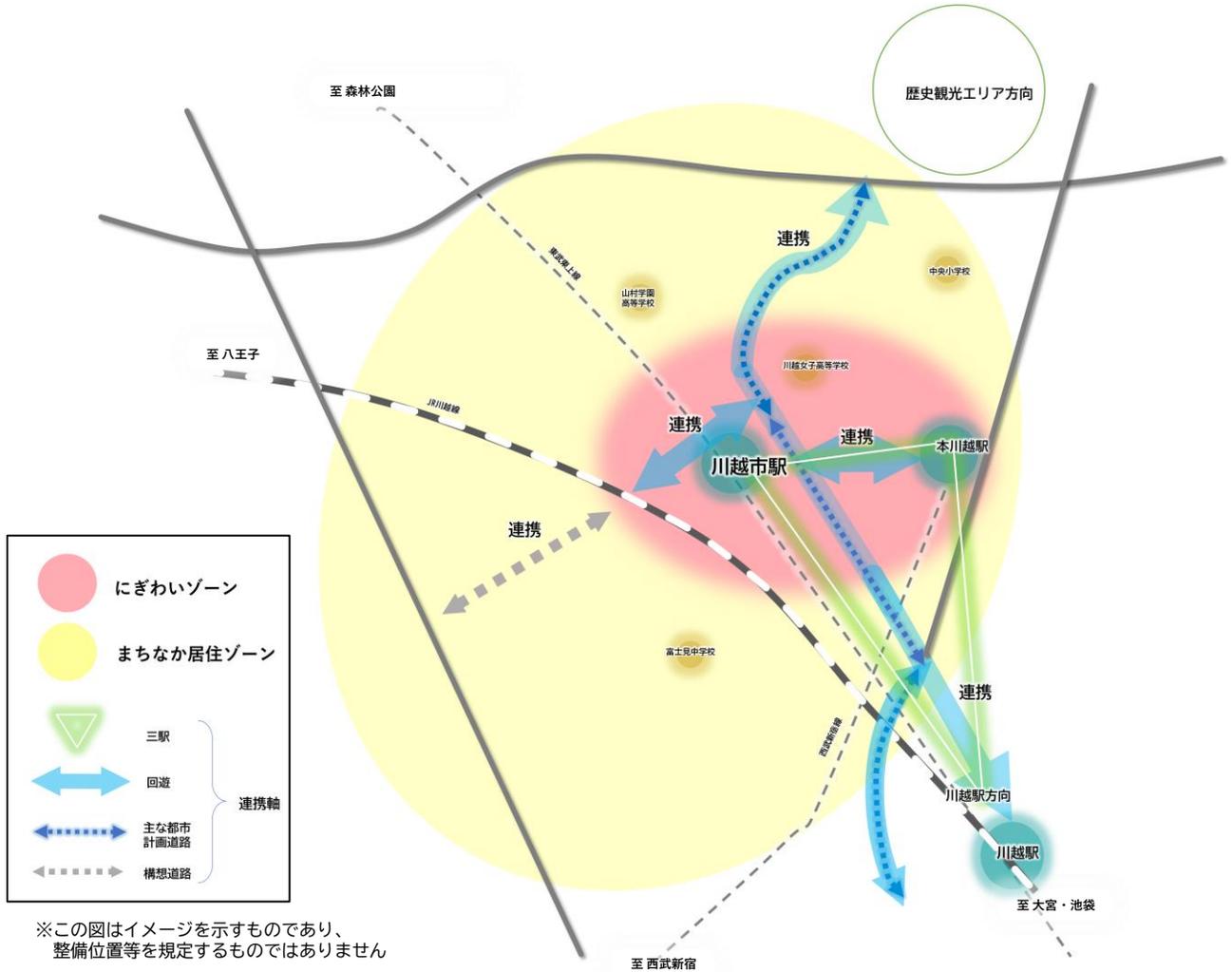


地域住民、地元商工会、学生等、様々な立場の人が集う検討の場

5 まちづくりのイメージ図

- まちづくりの考え方を、以下のイメージ図にて示します。

■ まちづくりのイメージ図



まちなか居住ゾーン

駅に近く利便性の高いまちなかの住宅地として、緑を感じ、ゆとりある住環境を備えた、「このまちに住みたい、住み続けたい」気持ち高めるゾーン。

【ゾーンのイメージ】



にぎわいゾーン

まちの玄関口として、多彩な人を惹きつけ、にぎわい創出に資するような都市機能や暮らしの質を高める都市機能がある、みんなの居場所となりうるゾーン。

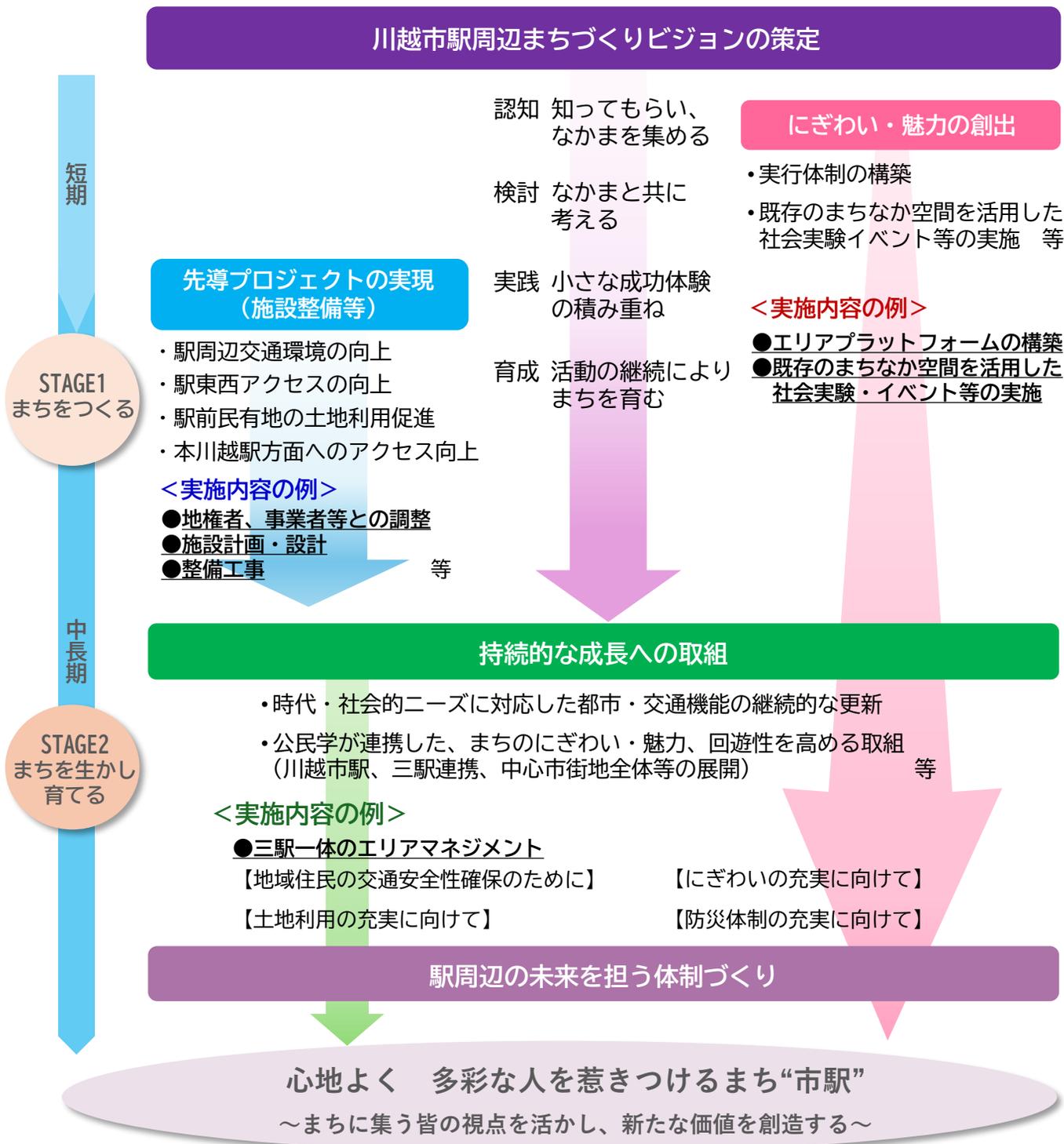
【ゾーンのイメージ】



5 実現に向けて

1 実現に向けて

- 川越市駅周辺まちづくりビジョンの策定後には、以下の手順でまちづくりを進めていきます。



2 ビジョンの具体化に向けた方向性

- ビジョンを具体化するための主な方向性・方策を次のとおりとし、ビジョンに掲げた将来像の実現に向けて、取り組んでいきます。

① まちの機運醸成

- 中長期的なハード面の改善にあたっては、長い時間がかかるため、ビジョン策定後は、まちづくりの「仲間」を集め、機運を高めていきます。

② まちの基盤整備

- 川越市駅周辺の基盤整備を推進するにあたり、現状の課題への対応や、将来像の実現にあたって波及効果の高い取組を進めます。
- 主に駅周辺の基盤整備や、都市計画などの土地利用の誘導等について、官民の連携により展開していきます。

③ まちづくりの実行体制の構築

- 川越市駅周辺へののにぎわい・魅力の創出に向けては、基盤整備や土地利用の誘導等のハード面の取組のみならず、既存のまちなか空間を活用したソフト面の取組を行い、まちづくりへの興味・関心を向上させ、機運を高めていくことも必要です。
- そこで、【先導プロジェクト】と並行して、実行体制の構築（エリアプラットフォーム等）や、既存のまちなか空間を活用した社会実験・イベント等の実施を進めていきます。

川越市 都市計画部 都市計画課
電話番号：049-224-5945 FAX：049-225-9800

